第３回宇陀市総合教育会議　議事録

開催日時：平成２７年１１月１１日（水）　午後３時００分～午後５時０４分	
開催場所：宇陀市役所３階　庁議室	
構成員出席者	竹内幹郎宇陀市長 福田裕光教育長 寺澤亮一教育委員　中尾哲夫教育委員　岡本憲明教育委員　巽礼子教育委員
説明者	増田教育委員会事務局長 出山総務課長　西田教育総務課長
協議事項	１宇陀市教育大綱案作成について

議 事 （ 発 言 内 容 等 ）

市　長	第２回会議のご意見を参考にした修正案を確認しながら、会議を進行いたします。
教育長	修正案の説明 大綱の構成・・・　基本理念 基本目標　基本方針 １　⇒　Ⅰ ２　⇒　Ⅱ、Ⅲ ３　⇒　Ⅳ ４　⇒　Ⅴ ○基本目標の１つめと基本方針Ⅰについて
教育長	宇陀市では、“マイ弁当”（災害時等に自ら食生活を守ることができるように、子どもが自分の弁当を作って登校する事業）を平成 27 年度から実施しています。 保護者と子どもが弁当づくりを通して、会話することの大切さを感じたという回答がアンケートには多かったようです。
寺澤委員	マイ弁当という取り組みをしている自治体はあまりなく、発展していけば良い効果が生まれると思います。 ○基本目標の２つめと基本方針Ⅱ、Ⅲについて
寺澤委員	Ⅱ教育環境の整備の３つめの項目「社会教育施設の充実」を「社会教育活動の充実」という表現にして、指導者養成や人権スポットめぐりなどハードよりソフト的なことをしてはどうかと思うのです。
市　長	出生数が少なく、学校は少人数化が進んでいます。 少人数の学校というのは、集団社会を学ぶ上で良いものなのかどうか危惧されます。手厚い指導ができる反面、自立心が育ちにくくなる恐れがあります。また、競争原理が働かなくなるとも考えられます。 しかし、学校統合は条件が整わないと進められないので、まずは、子どもたちが安全に通学できることを第一にしていきます。 室生地域では、室生西小学校校舎の工事中、児童が室生中学校の校舎３階に入ってお

	ります。小中学校の連携した教育については、良い機会かもしれないです。 　きっかけづくりとして、中学校の先生方が小学生に声かけして、徐々に子ども達も声かけをしあうようになります。３学期には授業を含めて交流していけたら良いだろうということです。
寺澤委員	この大綱ができあがった際、教育委員会から現場へは、できるだけ親切に具体化しておろしていただきたいです。 　また、保護者に対しては、受けとめやすいようにやさしい言葉で作っていきたいですね。
市　長	基本方針Ⅱの３つめの項目「社会教育施設の充実」は、「社会教育活動の充実」としてはいかがでしょうか？ 　〇基本目標の３つめと基本方針Ⅳについて
中尾委員	ソーシャルインクルージョンという言葉がどこかに入らないでしょうか？ 　「社会を包括する」という意味なのですが、人権文化の育成ということが全て含まれているのではないかと思い、これからの時代は重要なことではないかと感じています。
巽　委員	「ソーシャル」という言葉が入ると大きく感じるのですが、「インクルージョン教育」という言葉は使われていますね。福祉や助け合うということなど、お互いの力を出し合って協働共生するという意味で使われているということを聞いたことがあります。
寺澤委員	４つめの「理解し合い共生する力の育成」という表現をもう少し滑らかにしてはいかがでしょうか。
巽　委員	「共生する力」という表現が具体的でないように感じます。
中尾委員	４つめに「インクルージョン教育」という言葉を入れることで、宇陀市が先端をいく人間教育をしているという感じがします。
巽　委員	社会的孤立ということについて、宇陀市も危機感を持たなければいけないと思います。
市　長	人権教育が優先されて、義務と責任がなおざりにされているように感じます。 　毎年、社会福祉費が１兆円規模で増大しています。当然という権利主張が多く、感謝の気持ちや義務と責任という観念が希薄になっています。 　また、宇陀市民であることに自信と誇りが無くなってきています。宇陀市は、少し不便だけれど、こんなにいいところだという自信が無くなってきているのでしょう。自信と誇りを持つ地域づくりを進めていかないといけないです。 　社会福祉が充実した社会になってきましたが、その財源は誰が負担しているのかというと社会が負担しているのです。高度医療や高齢者医療費の増加に伴い社会負担が増加してくると、その仕組みが顕在化してくるでしょう。社会を運営する根幹にかかわる話を子どもたちの教育の中でしていく必要があると思います。
教育長	社会科の公民領域では、社会の一員としてのルール、規範、責任、役割、納税や権利などを教えていきます。 　人権の場合は、共に高まっていくという視点が大事です。お互いに高まりあっていくからこそ、子どもたちの間で、あるいは教育の中で人権を尊重するという価値観が生まれてくる、それが大事なコンセプトではないかと思っています。
市　長	素晴らしい能力を持っていても、話さなければ何も生まれてきません。

	宇陀市という素晴らしいところに住んでいるということを、自覚できるよう意識づけしていただきたいです。人権文化の創造の中に、義務と責任があるということ、自信と誇りを持って生きて行こうという表現を含めていただければありがたいです。
中尾委員	基本目標の３つめの「規範を守り」というところを、「社会の一員として規範意識を守り、責任感を育てる」などという表現にしてはいかがでしょうか？ また、インクルージョンということをうまく表現できればいいのですが。
市　長	基本方針Ⅳの４つめの「理解し合い共生する」というのは理想の姿です。ある程度、競争も必要だと思います。
寺澤委員	学校の人権教育で、日本がヨーロッパに比べ劣っておりますのは、ディベート（討論する）というカテゴリーです。理解と共生といった相互理解の前段で、あるいは国際社会を生きていく力を培うためにも、そういう活動が必要だと思います。日本の人権教育を推進する上で、学校での工夫が十分ではないようですね。
教育長	日本人は外国の方と話すとき、口ごもってしまい、うなづくか「〇〇さんと同じです。」という場合が多いです。外国の方は「自分はこう思います。」ということをしっかりと言います。 基本目標３つめは「社会の一員として規範・責任を守り」という表現にさせていただき、ソーシャルインクルージョンという言葉をどこかに入れていきましょうか？
市　長	社会の一員としてのあとを、権利、義務、責任としてはいかがでしょうか？規範という言葉は一般的には難しい言葉かと思いますので、説明の不要な表現でお願いしたいです。
寺澤委員	基本目標３つめのところは、「社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し」とした方が良いのではないでしょうか？ ソーシャルインクルージョンという表現は、タイトルなどの大きな価値感などを示す表現として用いるのが良いのではないでしょうか？また、コミュニティーという言葉を日本語で表してみてはいかがでしょうか？
市　長	話さなくても良い社会となり、コミュニケーションが不足しています。基本方針Ⅳの４つめの項目「理解し共生する力の育成」は、２つめと３つめの項目に含まれているのではないでしょうか？
増田局長	ソーシャルインクルージョンという言葉は、４つめの項目の「共生」に含まれてくると思われます。例えば「理解し合い共生する力（ソーシャルインクルージョン）の育成」という表現の仕方もあるかと思います。
市　長	「共に生きる」という表現の方がわかりやすいですね。 例えば、統計や分析を重視する国の政策が実態とかい離している場合があり、その政策の推進が必ずしも市民生活に良い結果をもたらさないということがあります。 共に生きることで、知識では得られない知恵というものが養われていくのです。
寺澤委員	人権文化の「文化」とは、あいさつや会話、誰かに席をゆずるといったさまざまな身についた生活習慣です。そういう生活習慣が身につくように発信してあげれば良いかと思います。 また、メディアによって価値観が誘導されてしまう場合があるので、メディアリテラシー（メディアを批判的に読み取る）という力の育成が必要かと思います。 基本方針Ⅳの１つめの項目については、法務省が推進していますので外すことはできないでしょう。

	人と人の関係をつくるキーワードは、あいさつと会話です。理解と共生の前には、それらが必要です。政府が日本や韓国その他３ヶ国くらいの国々で毎年実施している調査において、近所の方への挨拶の回数が最も低いのが日本ということです。 ２つめ、３つめ、４つめの項目は、イメージが伝わりやすいように練り直してみましょう。 米国の学校現場では、先生と子どもたちは友達のような関係です。ただし、人を敬うといったことは、生活習慣の中に生きています。 また、米国の高校では、高校生の出産した子どもを預かるベビールームがあり、学んで自立していくための設備や支援が整っています。人権意識や価値観が異なるのです。 ○基本目標４つめと基本方針Ｖについて
寺澤委員	タイトルを「宇陀を誇り、発展をめざして」というようにしてはいかがでしょうか？
市　長	合併後 10 年が経過し、旧町村の歴史が失われてしまうような気がするのです。文化遺産の少ない地域ですので、そういうことの無いように大事にしていきたいです。
中尾委員	基本方針Ｖのタイトルに「宇陀を誇り」という言葉をいれてはいかがでしょう。
岡本委員	宇陀の伝統・文化を誇れるように、大人が若い世代に教えていくというのが大事なことだと思います。
寺澤委員	生涯学習のいろんな講座でフィールドワークをして、皆が知る機会を増やしていけば良いと思います。
岡本委員	大宇陀の街並みボランティアに参加することで今まで知らなかったことを覚えられて良かったということを聞きました。
市　長	これまで、宇陀市に貢献してくださった方々の意志の尊さを伝えて行けば、子ども達も自信や誇りを持てるのではないかと思います。
巽　委員	基本方針「Ⅱ教育環境の整備」の３つめの項目で、「社会教育施設の充実」という表現であれば、学校の空教室や廃校舎をどのように活用していくのかということになりますが、「社会教育活動の充実」という表現にする場合は「Ⅲ豊かな地域教育力の構築」に入れる方が良いのではないでしょうか？
寺澤委員	施設を残していくのであれば「社会教育施設の活用と充実」というようにしましょうか。
巽　委員	ある物を今後どう活かしていくかということですね。
寺澤委員	さて、公共交通でコミュニティバスの利用者は何人くらいでしょうか？
市　長	2.5 人前後だったと記憶しています。利用者は少ないですが、地域では存続を望んでいます。少し不便でも歩いて筋力をつけ、健康になろうという運動を進めたいです。
寺澤委員	史跡や文化財学習の推進として、身近な史跡や文化財のことについて発信できる講座や企画が生まれてくるといいだろうと思います。
巽　委員	他自治体の公民館の館外活動で、宇陀市へ訪れる方が多いようです。
寺澤委員	史跡や文化財学習をすれば、わが町のことがもっとわかるようになるので、教育委員会だけでなく、職員を挙げて発信できれば良いと思います。宇陀を誇る気持ちや愛着を感じるようなものをこしらえてあげればと思います。
市　長	宇陀市の良いところを知らない方が多いですね。

	子どもたちに興味を持ってもらえるように教えていきたいですね。
教育長	修正箇所の確認をします。 「２基本目標」の３つめを「社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し」とします。 「３基本方針・Ⅱ教育環境の整備」の３つめの項目を「社会教育施設の活用と充実」という文言に修正します。 「３基本方針・Ⅳ人権文化の創造」の２つめと３つめの表現がわかりにくいようですので、生活の中でのあいさつやつながりといったわかり易い表現にしてはどうかということ、そしてソーシャルインクルージョンという考え方を含めた表現を盛り込んではどうかということでした。２つめから４つめまでは、次回にまとめさせていただくことにします。 「３基本方針・Ⅴ」は、「宇陀市を誇り、発展をめざして」というタイトルに修正いたします。
市　長	次回には、冊子の案を示していただきたい。
出山総務課長	次回の総合教育会議は、平成 28 年 1 月 22 日（金）午後 1 時 30 分から開始します。